

7. 想定される諸室機能・候補地

(1) 博物館の施設構成の想定

①諸室構成要素

本計画における施設要件を下記に想定します。

感動伝達事業	● 展示機能	常設展示室、企画展示室、子ども展示 など
	● 学習支援機能	講堂、実験室 など
地域課題解決事業	● 収集・保存機能	収蔵庫、特別収蔵庫、搬出入口・トラックヤード など
	● 調査・研究機能	研究室、標本作業室 など
つながり創出事業	● つどい・交流機能	市民活動・交流スペース、ミュージアムカフェ など
	● 人材育成機能	ボランティア室 など
事務管理部門	● 事務管理機能	事務室、会議室、倉庫 など

②諸室構成表

想定される諸室		概要
感動伝達事業		展示や学習支援活動を通じて、来館者へ札幌の自然史の魅力と驚きが伝わる場とします。
展示	導入展示	札幌の自然・歴史・文化を臨場感あふれる映像で楽しむことができる場。
	総合展示	「札幌の生命と進化」「札幌の自然」「札幌の街と人」の3つの視点で、札幌の自然の魅力を楽しく・分かりやすく伝える。
	つながり展示	各テーマ間をつなぎ、展示内容を包括的に捉えることができる場。
	トピック展示	学芸員の研究成果発表や市民による展示などが行える、小型企画展示スペース。
	子ども展示	親子連れが、安心して展示を楽しむことができる場。
	企画展示室	企画展・巡回展などが開催できる場。
	展示準備室	展示替えを行うための事前準備や企画展開催の打ち合わせ、作業などを行う場。
学習支援	講堂	シンポジウム、講演会や映像上映会などを開催する場。
	セミナールーム	関連講座の開催、関係機関のプレゼンテーションなどを行う場。
	実験室	実験器具を揃え、講座やワークショップなどを行う場。
	オリエンテーションルーム	学校や福祉施設などの団体利用の際、展示を見る前の概要説明の場や一時待機スペースなどとして利用する場。
	ティーチャーズルーム	学習カリキュラムをサポートするための教材開発を行える場。

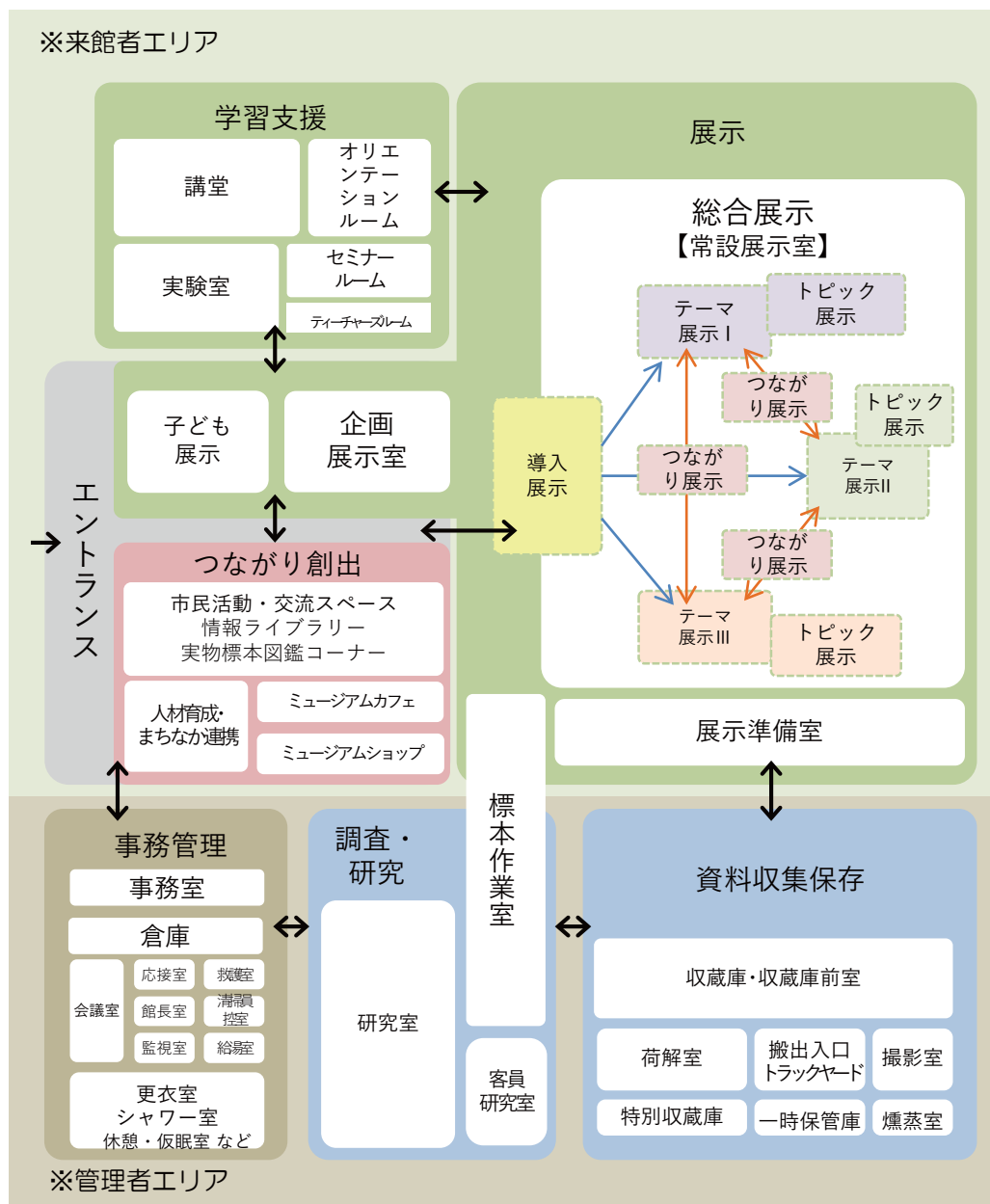
7. 想定される諸室機能・候補地

想定される諸室		概要
地域課題解決事業		調査・研究、収集・保存活動の成果を蓄積し、地域の身近な課題の解決策を探求できる場とします。
資料収集・保存	収蔵庫前室・収蔵庫 ・特別収蔵庫・一時保管庫 ・搬出入口・トラックヤード ・荷解室	所蔵資料保管をはじめ、企画展やイベント開催などに伴い借用資料の一時保管の場。
	くんじょうしつ 燻蒸室	所蔵資料の定期的燻蒸のほか、新規収蔵資料、寄贈を受けた資料についての保存管理のため、燻蒸の場。
	撮影室	所蔵資料の管理のための撮影作業の他、企画展示開催時の図録用資料撮影などの場。
	研究室・客員研究室	事業活動の基盤となる調査・研究を行うとともに、研究者が意見交換を行う場。
調査・研究	標本作業室など	発掘後の化石をクリーニングする設備や、調査、研究を深める場。
つながり創出事業		当博物館が拠点となり、多様な交流機会をつくりだし、新たな発信を行う場とします。
つどい・交流	市民活動・交流スペース	市民が気軽に交流し、情報交換や発信を行うことができる場。
	情報ライブラリー	知りたい情報を自由に検索し、知識をさらに広げるための場。
	実物標本図鑑コーナー	常に入が行き交う空間に実物標本を展示し、館のイメージを創出する場。
	ミュージアムショップ	オリジナルグッズや関連グッズの販売を行う場。
	ミュージアムカフェ	来館者へくつろぎの場と地元の食材を提供できる場。
人材育成	ボランティア室 友の会事務室	市民の自主活動を館内で行う際、打ち合わせや作業などに利用できる場。
まちなか連携	移動博物館準備室	移動博物館に必要な、打ち合わせや作業などを行う場。
事務管理部門		博物館の管理事務職員が快適に執務できる空間として整備するとともに、情報化に対応したものとします。また、専用の通用口からアクセスできるようにします。
事務管理	館長室・事務室・応接室 ・会議室・給湯室	館内の職員が円滑に業務が行えるような環境。
	救護室	応急手当が必要な来館者や職員が利用する場。
	監視室	主に来館者の安全確保のため、館内の監視を行う場。
	清掃員控室	清掃員の待機スペース。
	倉庫	事務関連備品や書類などの保管を行う場。
	更衣室・シャワー室・休憩・仮眠室など	館内の職員が業務上利用する場。
共用部		エントランスホール、EV、トイレ など

7. 想定される諸室機能・候補地

(2) 諸室連関（概念図）

諸室機能の連関について、下記に考え方を示します。来館者エリアと管理者エリアの区分、無料・有料ゾーンの区分など、主動線から諸機能にアクセスしやすく、関連する機能を近づける工夫をし、利用しやすく、無駄のない配置を検討します。



- ※その他施設要素
- ・駐車場（大型バス駐車スペース含む）
 - ・エントランススペース（ワークショップや資料閲覧で利用するなど、市民や観光客が集う場所として）

なお、（仮称）札幌博物館の延床面積については、（仮称）札幌博物館基本計画で示した10,000～17,000㎡の範囲で、展示物等収容可能であると推定されます。具体的な諸室構成、面積などの詳細については、整備基本計画で検討を進めます。

7. 想定される諸室機能・候補地

(3) 博物館の候補地

①博物館に求められる立地条件

- できるだけ市民が集いやすく、観光客が来訪しやすい場所にあること
- （仮称）札幌博物館の基本テーマ「北・その自然と人」を実感できる環境が周囲にあること
- 事業を展開するために必要な規模（広さ）を確保できること

～ MEMO ～